令和３年６月25日　発行

【教育目標】

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人
【徳】互いを尊重し、協力する人
【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校
下井草４－３－２９　℡３３９９-２１９６

「“学校に～させられる生徒”から“生徒が～する学校”へレベルアップしていきたい」～学年を越えたグループワーク（R2.12.3）冒頭の生徒会役員の挨拶より～

校長　香西　雅斗

２・３年生が５月にGIGAタブレットを使い始め、１年生にも貸与が行われ、中瀬中では今、３年生を中心に『タブレットの使い方のルール』を考えています。その中で例えば**「休み時間にYouTubeを見るのは良いのか」**について**「出る音が周りの迷惑になる」「それならイヤホンを持ってくれば迷惑にならない」**などの意見が交わされています。

【１】「人に迷惑をかけない」という基準は正しいのか

一見正しそうですが、「迷惑かけないなら何をやっても良い」と簡単に置き換わる危うさをもっています。それだけでなく、例えば背が高い人がいて前が見えないと「背が高いから迷惑」という感覚に結び付き、**エスカレートすると**「お前の息が迷惑」など**迷惑というワードで相手の存在を否定する**ことにつながります。

“迷惑の感覚”のぶつかり合いが招くのは、声の大きい者、力の強い者の感覚が幅をきかせ、そうでない者が肩身の狭い思いをしてびくびくする世界です。

人は他の人と関ることにより人間として成長していきます。関りは摩擦を伴うので迷惑を100%かけないように関わることはできません。むしろ**「自分が人に迷惑をかけている（だけでなく相手のためになっている）」ことを踏まえて行動できるよう成長していくことが望まれます。**…コロナ禍で「自分が感染している可能性がある」ことを前提に行動していくことも、そうです。

【２】何を基準に“ルール”を考えればよいのか

そもそも**“ルールは守らせるためではなく、みんなで気持ちを合わせて未来を作るためにある”**…学校通信384号R1.9の巻頭言”のです。ならば**「みんなで作る未来」**がルールを考える基準です。中瀬中の**生徒**たちはすでに、自分たちでその話し合いを進めています。

まず生徒総会で生徒会長から『和の中での自立』～生徒全員が仲間となり、自分の意志で考え「私は中瀬生だ」と誇りをもって行動し、違う個性の生徒、先生と、日々笑い合える中瀬中学校を創っていく（生徒会宣言…学校通信407号 R1.1）～を目指し活動していこうという呼びかけがされました。

次に校舎改築を機に、次の時代の中瀬中を自分たちで作っていく土台プロジェクトとして生徒全員で「中瀬中らしさ」「理想の生徒像」を、学年を越えたグループワークなどを行い、みんなで考えてきました。

そして６月１１日（金）の６時間目のオンライン生徒集会（チームズを使った各教室への配信）で生徒会長からまとめの提案がされ、生徒たちはGIGAタブレットを使いロイロノートで賛否と意見を一人一人が表明しました。（その様子は裏面で紹介します）

この様な時に、教員を含め周囲の大人がどう関わるのかが問われています。生徒の意見の正誤をジャッジするのではなく、話し合いをただ傍観するのでもなく、生徒たちと共に本質を突き詰め考え抜こうとする、生徒と共に成長していこうとする姿勢をもち続けたいと思います。

中瀬中が目指す理想の生徒像

この春卒業した先輩達の**「生徒が校則やルールを考え、自由で規律ある中瀬中学校にしていきたい」**という思いを受け、昨年１１月から生徒会役員を中心に『自分たちの学校を、自分たちで作る、土台づくりプロジェクト』始まりました。取組のゴールや目的から議論を重ね、生活指導部の先生たちとも話し合う中で生徒会役員たちが考えたのは

○『ルールを考える』ためには『自分たちが目指す中瀬中生の姿（理想の生徒像）を明確にすること』が必要。その土台の上に『自分や学校のことを考え、理想の実現のための決まり』を作っていく。

です。そして１２月に、学年を越えて、体育館で**みんなの意見を取り入れる**グループワークを行い、さらに**生徒会役員や中央委員会で検討を続け**まとまったのが右の生徒像です。

向き合い、	自分と仲間とルールと向き合う生徒
認め合い、	お互いに興味をもち、尊重し合う生徒
考えて、	どんな中瀬中でありたいか、そのためにどんな行動をとるべきかよく考える生徒
輝け！	自ら行動し、輝くことで、周りも照らし、高めあえる生徒

＜タブレットを使い意見表明＞

６月１１日に生徒会長の西山さんからの発表された後、GIGAタブレットを使いアンケートを行った結果、**９６％を超える生徒が賛成**を表明しました。まずロイロノートを使って記入された、**賛成意見**を紹介します。

自分の仲間と向き合い、互いに尊重し合い、認め合うことはとても大事だと思った。自分たちで今後の中瀬中をどうするかを考えることで、言われたことをただやるだけではなく、そこから自立することができる、自分たちで考える能力も上がる。　３Ａ　髙橋　英馬

賛成。まずお互いに考えて行動を起こそうとしないと、どこかで衝突してしまったりする。また、考えはみんなで出すべきものだと思う。　３Ａ　髙橋　真希

目標を一つ設定することによって自分が進むべき道が明確化されて中瀬中学校の誇りある生徒として自覚を持つことができる。　３Ｂ　生駒　勇人

自分たち一人一人が今何をすべきか考え、行動することが、より良い中瀬中をつくっていくことにつながると思う。コロナ禍である今だからこその理想、目標だと思う。　３Ｂ　西ケ谷　美結

今，中央委員会が中心となって考えているタブレットの使い方についてもあるように，自分のためだけでなく互いのことも高めあうことで成長することはすごくいいと思います。自分の満足だけでなく、全員が満足できる学校にするには、一人一人がしっかりと考えることが大切だと私も思います。　３Ｃ　古川　菜々美

自ら行動することでより成長することができる。またルールに縛られて生活するより自主的にルールを守った方が良い。３Ａ　小野　航希

中瀬中がより良い集団になるためには、大人に頼らず自分たちで考えてルールなどを決めるべきだと思うし、一人一人が輝けるのも大切だと思う。　３Ｂ　辻野　瑛太郎

自分たちでルールを決めることも、この生徒像になれてからだ。また、自分だけでなく周りの人のことも考えられる人になれる生徒像だと思った。　３Ｃ　片岡　万結

今の生活をよりよくするにはまず今と向き合い、どう対応していくかよく考える必要があると思う。互いの意見を聞きあってどういう中瀬にしたいか考えること。　３Ｄ　内藤　早希

この理想は中瀬中学校の中だけでなく、これからの人生にも必要なことだ。　３Ｄ　本間　大智

いつまでも先生たちに注意されたりしてルールを守るのではなく自分から守っていくことで将来につながっていく。　３Ｄ　前田　美千瑠

友達が行動したから自分も行動するのではなく、中瀬中学校の生徒全員が、自分から進んで行動したらすごいなと思ったので、私は賛成します。　２Ａ　品川　美優

中瀬中が平和にあるためにも、考えて行動して仲間を思う事がとても大切だと思う。この理想の生徒像をみんながやれば、とても良い学校になる。　２Ｂ　佐藤　正一朗

ルールに従うのではなく自分たちで考え行動して、自分たちを高め合うことがいい。具体的に書かれておりみんなが意識して行動できると思う。　２Ｃ　板倉　凪

互いを尊重しながら自己判断ができる生徒がいい。仲間やルールと向き合い、互いに認め合い尊重し、その上で考えながら行動していく。全てが含まれ、簡潔に表されている。

また、固くルールで縛るのではなく、あくまでも「考えて」と自己判断ができる中瀬中生を掲げているのも良い。　２Ｃ　小野　桐佳

お互いを高め合うことやそれぞれを尊重し合うことは重要。またどんな中瀬中にするか考えるのも貴重な体験だと思う。２Ｄ　山川　倫太郎

校舎改築検討懇談会より

昨年の７月から始まった懇談会が、６月２３日の第９回の会合をもって終了しました。この間の検討内容は、区からの懇談会ニュースで周知されていますが、通信でも新校舎（案）を紹介します。

新校舎敷地の西側に建てられる予定です。創立時は東側に校舎があり、現在は北、そして西と移ることになります。

右は**早稲田通り側からのイメージ図**です。プールは体育館の上に来ます。南側の教室は特別教室。校庭東側のひな壇や樹木はそのまま保存されます。北と西にあるコンクリートの壁（ヨウヘキ）は無くなります。

左は**北東（駐車場）側からのイメージ図**です。校庭は南北になり現在より少し広くなります。普通教室は全て東向き、バルコニー付きです。正門はだいたい今の北門の位置、横に広い階段を上ると昇降口が見えます。

現在の北側校舎は建築中も使用し、新校舎完成後に解体なのでその分、新校舎は奥になり、玄関前に広いスペースができます。

校舎の内部や外観については、これから詳細を詰めていくことになります。またこれは現在の計画ですので、地盤や土壌調査の結果次第で変更されることもあります。

【新校舎に関わる工事のスケジュール（予定）】

令和4年度	5～7年度	8年度
○6月中旬～12月　仮校舎と仮体育館建設（校庭の東側が使用できない） ○3学期より仮校舎等使用開始 特別教室棟、プール、体育館解体 （校庭の西側が使用できない）	○新校舎建設。7年度の夏休み前後に完成→使用開始。 ○校庭南東エリアは使用可能。 ○新校舎完成後、仮校舎解体（～冬休み）その後、既存北側校舎解体	○1学期中に北側校舎解体終了 その後、校庭や周囲の環境整備 ○校庭まで含めて、完全に新しい中瀬中が起動するのは3学期

※ 建設中は今より一回り小さい仮の体育館と、校庭の南東（700㎡）が使用可能。部活動については、教育委員会より近隣の小学校、中学校に協力を依頼しています。またプールは沓掛小にお願いするなど、体育の授業も近隣の小学校に協力してもらうことも検討しています。

※ 普通教室は新校舎完成まで使用できますが、中央玄関前まで新校舎の建設区域になるので、既存の北側校舎の西半分は普通教室としては適しません。そこで校庭の東側に建てる仮校舎に、普通教室８つ、音楽室、理科室、家庭科室をおき、北側校舎の西半分を美術室、技術室、更衣室などで使います。図書室は北側校舎一階奥の創作活動室をあてるなどの工夫をします。

年度当初の年間行事予定からの変更点

昨年度に続き今年度も、緊急事態宣言や感染症拡大予防のため、時差登校・分散教室の実施や、行事予定の変更を余儀なくされました。以下に変更点をまとめておきます。

① 時差登校・分散教室については、感染状況を考え、とりあえず１学期中は継続します。

② 5月に予定されていた1・2年生の三者面談は、夏季休業中に実施します。

③ 体育大会は10月8日（金）に延期。予備日は12日（火）。

④ 体育大会の準備期間の関係で、2学期中間考査を9月21日（火）、22日（水）に実施。

⑤ 2年生の職場体験は、職場訪問に変更。午前中は授業、給食は3日間ともあり。

⑥ １年生のフレンドシップスクールは11月22日（月）宿泊はなし。3年生の修学旅行は３月 11 日（金）に延期、方面は京都・奈良、宿舎は『いしちょう』。

⑦ セーフティ教室 9月 17 日（金）、 ２学期の中瀬検定 10 月 9 日（土）←行事予定から抜けていました

特に「認め合い高めあう」というのがいいと思った。LGBT などいろんな人がいることを理解することも大切だと思ったし、そこから高め合っていくというのがいい。
1A 森 こころ

自分がどのような事をしなければいけないか考えて行動することが大切だと思った。また、互いに支えあい高めあえる学校にすることによって皆が勉強しやすい環境になると思う。1B 富田 幸慈

お互いを尊重しあう生徒は、仲間との信頼関係がより一層深めることができる。どんな中瀬中でありたいか、そのためにどのような行動をとるべきか考える生徒は、成長が早いと思う。
1C 栗原 琉斗

自分と仲間で、ルールを決めることによって、自分と違う意見を持っている人がいることに気づけるし、みんなが納得できるルールが作れると思う。
今まで、先輩たちが作り上げてきたい中瀬中を受け継ぎ、先輩に負けないよう、より良い中瀬中でありたい…
1D 寺坂 はるな

自分自身に、仲間に、ルールに向き合い、向き合った上で認め合うというのがとてもいい。
自分で「どんな中瀬中にしたいか、どんな生徒になりたいか」と考え「自分が、みんなが、学校が輝けるようにする」というのがとても心に刺さった
人と向き合い、認め合い、自分で考え、輝けるように努力する、そのような生徒に自分もなりたい。1E 筒井 瞬

タブレット・ロイロノートという道具で、一人一人が考え、意見を表明することが容易になりました。まさに**“直接民主主義”**です。（紙面の都合で紹介しきれませんが、この他にも多くの生徒が真剣に考えていることが伝わってきます。）

さて、民主主義の原則は**「多数決の原理」**と**「少数意見の尊重」**です。主な反対意見を紹介します。

「いろんな人がいていいと思うし、何事も理想通りには行かないものだと思う。また、理想という言葉で人を縛るのはもったいない。多様性を否定していることになるし、そもそも理想というものを作る意味がよくわからない。」
（3A 田村 大翔）

「きれいごと並べただけだと思います。」（3年）

「一人一人理想の生徒像を持っていると思うので、あまり理想の生徒像を固定しないほうがいいと思います。」
（2B 古賀 晴子）

「当たり前のことを当たり前にするのは当然の行いだし、認め合うこともとても大切です。しかし私は個人で物事を行うような言い方ではなく、仲間と協力するようなもっと直接な表現でもよかったのではないかと思います。」
（2D 山﨑 玲來）

「仲間と向き合えない人が存在するので生徒像が正しく機能しない。互いに尊重できない人もいる。上下関係がいつの間にかできていたら意味がない。気軽に話せる相手がいない人に考慮するべきだと思います。」
（1A 南 太市）

提案者の本部役員・中央委員とともに賛成した人も、反対意見をしっかり受け止め、応えることが求められています。

ヤゴ救出大作戦

ヤゴ救出作戦が６月１０日（木）の放課後に行われました。昨年度はコロナの関係で、ごくわずかな人数でしかできませんでした。今年も地域の方や小学生の参加はかないませんでしたが、ビオトープ委員やボランティア部を中心とした、５０名を超える生徒の手で行うことができました。

＜落ち葉や泥だらけのプールに入ってヤゴを救出＞

＜沈んでいる落ち葉ごと
ヤゴをすくい取ります＞

結果は、３５００匹以上のヤゴを救い出しました。ほとんどがアカネ系でしたが、シオカラドンボも５匹、ヤンマも１匹いました。

最初は、泥水をすくったり、ヤゴを捕まえるのに抵抗があった生徒もいましたが、学校支援本部のビオトープ倶楽部の方と一緒に作業する中で、ヤゴの生態やトンボに羽化する話を伺ううちに、積極的に活動するようになりました。

救い出したヤゴは土曜日に地域の小学生に配ったり、各教室で面倒をみています。すぐ次の日に羽化したトンボもいました。

生徒達にとって、地域の方と力を合わせながら、命に触れ、命から学ぶことのできた、大切な時間となりました。